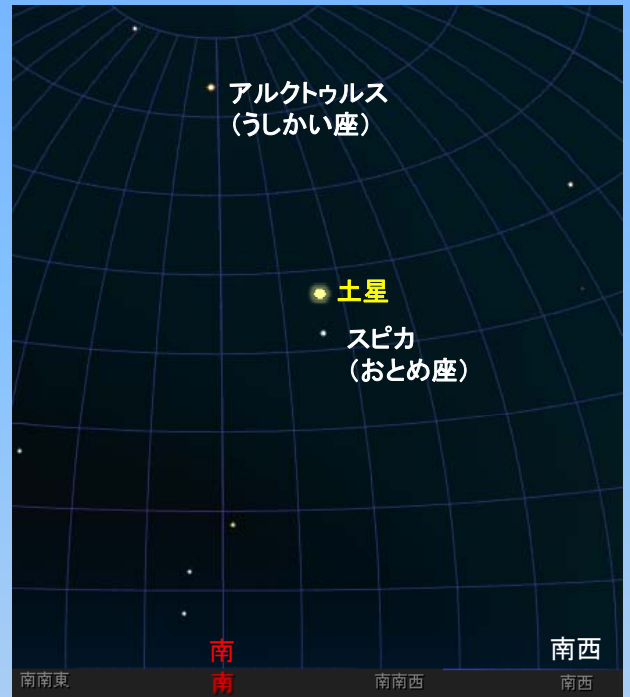


今が旬！ 土星を見よう

環（リング）を持つ惑星として有名な土星。6月から7月にかけて、宵の南の空で土星が見ごろを迎えています。まずは肉眼で、そして望遠鏡で、土星をさがしてみましょう。

空のどこに見える？

まずは肉眼で土星をさがしてみましょう。6月下旬の夜20時ごろ、南の空やや高めの上には明るい星が3つ見えています。頭の真上に近いところにはうしかい座のアルクトゥルス、そして2つ寄り添うようになっているのが土星とおとめ座のスピカです。土星とスピカの見分け方ですが、土星の方がやや黄色味がかっています（スピカは純白色です）。



2012年6月20日頃20時の南の空のようす
(AstroArts社製 ステラナビゲーター9で作成)

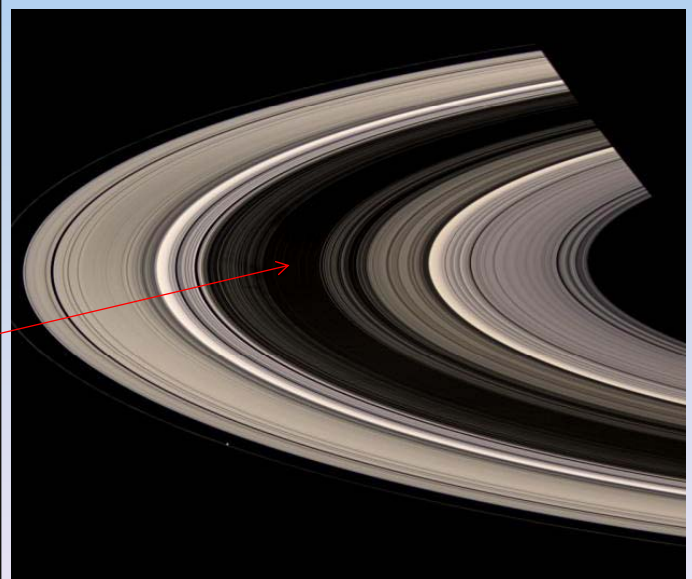
望遠鏡で見てみよう！

望遠鏡を持っている人はぜひ土星に向けてみましょう。50倍ていどで環（リング）があるのはわかります。さらに倍率上げて見ると、より環がよくわかりますよ。もしかしたら環の間にある“すきま※”も見えるかもしれません。

望遠鏡を持っていない人は、博物館の「星を見る会」にご参加ください。7月20日は土星を見る予定です。



50倍で見た土星(左)と200倍で見た土星(右)
(AstroArts社製 ステラナビゲーター9で作成)



探査機カッシーニが撮影した土星の環
中央に見えるのがカッシーニのすきま
(画像提供:NASA)

※土星の環は無数の氷や岩石の塊があつまってできています。ところどころに“すきま”のようなものがあり、もっとも目立つものを発見者の名をとって「カッシーニのすきま」と呼んでいます。